

腸管上皮細胞が産生する 新しいタンパク質について



渡辺 寛人

Hirohito Watanabe

農学部 生命科学科 生体機能物質学研究室

School of Agriculture, Department of Life Sciences

研究目的	ヒト腸管上皮細胞が産生し、抗菌性を有する可能性のある新奇タンパク質の構造、機能、発現制御機構を明らかにする。
研究内容	腸管上皮細胞は栄養素吸収機能だけでなく、異物排除や感染防御などのバリア機能をも有している。 本研究室では腸管上皮細胞が産生する新奇タンパク質について解析を行っている。このタンパク質はその構造から、抗菌性を有する可能性が推定されている。腸管上皮細胞のもつ自然免疫機能(抗菌など、幅広い対象に対しての免疫機能)を解明することにより、間接的にはヒトや家畜などの感染症防御法の開発につながる可能性もある。



●お問合せ先●

明治大学 研究推進部 生田研究知財事務室

TEL: 044-934-7639 E-mail: tlo-ikuta@mics.meiji.ac.jp

2014年6月改訂